

「一歩の原動力」

夢、希望、不安。さまざまな思いを胸に新たな「一歩」を踏み出している人たちがいます。そこには、どんな原動力があるのでしょうか。



◎ Profile
平村優子 昌農内出身。4年前に歌手になる夢を抱き上京。現在、デビューを果たすため、精力的に活動中。

夢をかなえるため 地元を離れての「一歩」

歌手を目指す一歩

愛媛を離れ、夢をかなえるための「一歩」を踏み出している平村優子さん。大学卒業後、東京の専門学校へ進み、幼いころからの夢だった歌手を目指しています。

「小さいころから歌うのが好きで、小学生のときには、パソコンのボイスレコーダーに自分の歌を録って遊んでいました」と当時を振り返ります。「20歳のとき、同年代の友人が心臓発作で急に亡くなってしまっただけ。そのとき、命は限りあるものだから、やりたいことを諦めて生きるのはいやめようと思ったんです。それからは、



幼少期の平村さん

何度も東京へオーディションを受けに行きました」と、夢を追い掛け始めたきっかけを話します。

専門学校を卒業して2年。路上ライブや動画サイトへの投稿が活動の中心だという平村さん。「体力的にも精神的にもつらいときがあります。でも、好きなことをしているから、家族の応援があるから、頑張ろうと思えます」と話すように、歌手になりたいという強い思いが「一歩の原動力」になっています。

「自分が作った曲をたくさんの人に聞いてほしい」その思いを歌に込めて、平村さんは着実にその歩みを進めています。



ライブの様子

サラリーマンから農家へ 初挑戦の「一歩」



◎ Profile
小林裕之＝中川原＝。3年前に就農。3人の子どもを持つ父親でもある。レタス、ブロッコリーや枝豆を主に栽培。



1_ 外葉と株元を取り形を整える 2_ 出荷のため丁寧に箱詰めしていく。1日に出荷するレタスは約500個 3_ 収穫したばかりのみずみずしいレタス。軽トラックいっぱい積まれる

障がい者の地域の受け皿をつくりたい

「障がい者の就労支援をする事業所を開きたいんです」。このように話すのは、13年勤めた病院を退職し、農業の道を歩み始めた小林裕之さんです。

「松前町には障がい福祉サービスを提供する事業所が少なく、地域の受け皿がない状態です。やり方次第で工夫でき、将来性がある農業を通じて障がい者の就労支援がしたい。そのためにも、自分が農家になろうと思っただけで、就農したきっかけを話します。

周りの人たちに支えられながら野菜作りに取り組んでいるという小林さん。「自分が作った野菜を『おいしい』と言ってもらえるとうれしいです」と魅力を感じる一方で農業の今後の課題も感じています。

「人手不足、これに尽きます。地域が活気づくには、若い人の力が必要です。この畑と一緒に野菜作りをする仲間が増えればもっと良くなる」と、障がい福祉サービスと農業の未来を見据える小林さんは、地域を思う気持ちで「一歩の原動力」になっっています。

農地を貸し借りませんか

町は、農地の有効活用と農業振興を図るため、経営規模を拡大したい農業者と後継者不足などに悩む農地所有者の農地の貸し借りについて橋渡しを行っています。安心した農地の貸し借りで効率的な経営をしませんか。

詳しくはお問い合わせください。
◎農業委員会事務局 ☎985-4131

小林さんを支える

武智幹雄 さん 中川原＝

小林さんのような若い人が、新しく農業を始められたことはとてもありがたいです。私たちの考えにはなかった機械の導入や人材雇用の取り組みは、若い人ならではの発想だと思います。これからも農業活性化のための協力は惜しみません。

Interview



Interview



新規採用
産業課
宮崎信吾さん

普段の職場と雰囲気が違うので、いろいろな人に積極的に話し掛けるよう心掛けました。この研修を生かして、町民の皆さんの思いに寄り添えられるような職員になりたいと感じました。



新規採用
町民課
鎌田あゆみさん

前職時代に新人研修を受けましたが、改めて初心を思い出すことができました。今までの民間経験を行政の分野でも生かし、自分にできることを一生懸命頑張りたいです。



昨年研修を受講
健康課
加藤李奈さん

おかげさまで保健師2年目を迎えました。研修で学んだお客様目線のサービス提供を日々の業務の中でも心掛けています。これからも親しみやすい保健師でありたいです。



1_ 笑顔で心掛け接客する 2_ お客さまが手に取りやすいよう整頓 3_ フジの社員の指導を受けながら作業を進める 4_ 包装紙の包み方を学ぶ 5_ 商品を箱詰めする宮田さん 6_ 子ども服の売り場を作った山本さん 7_ 新規採用職員全員で一日を振り返る 8~9_ 一日の気づきを発表する

「二歩の原動力」
公務員としての一歩を新たに踏み出した8人。今回の研修で得た経験が今後の彼らの「一歩の原動力」になることでしょう。

「た」と学生時代との違いを口にします。「民間企業の考え方を学べる機会は今後はないと思うので、学べることは全部吸収して自分の業務に生かしたいです」と地域のために貢献したい思いは民間も同じだと感じた宮田さん。これからの飛躍を誓います。

「一歩」を踏み出すために特別なことはありません。
「何かしたい、始めたい」と思ったそのときには、
新たな「一歩」を踏み出しているのです。
あなたはどんな「一歩」を踏み出しますか。

民間企業で接客研修 町の新規採用職員の「一歩」



民間企業の対応を学ぶ
町は昨年度から、新規採用職員の民間企業体験研修を始めています。これは接客サービスを通じて、町民に対する接遇能力や民間企業のコスト意識を職員に身に付けさせるため行うものです。

研修は、エミフルMASA KIとフジ松前店で行われ、一般事務職と保育士の計8人が参加しました。

研修で感じたこと
「子ども服の売り場作りを任されたのですが、なかなか



アイデアが浮かばなくて」と話すのは福祉課所属の山本真丈さんです。慣れない仕事に四苦八苦しながらも売り場を完成させました。

「売りたい商品を目立たせるために、どう配置すればいいのかわかりませんでした。アイデアが浮かばないのは普段からアンテナを高く張っていない証拠。普段の生活の中にも気づきがあるのだと思いました」と研修を通じたことを話します。

税務課所属の宮田敏江さんは「毎日が新発見の連続で驚くばかりです。目的意識を持つことの重要性を学びまし

